

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年2月24日(木)

《私たちの武器「祈り」－今は、1人1人の祈りが必要な時代です－》

今日は、福音に入る前に、第一朗読(シラ 5・1 - 8)のシラ書に書かれている言葉に目が止まりました。『「主の憐れみは豊かだから、数多くのわたしの罪は赦される」と言うな。』確かに、私たちは主の慈しみを信じています。“どんな罪を犯しても真に悔い改めれば必ず赦して下さる”というイエス様の御心を信じています。それは、この世の中の一番大きい罪であった私たちの救い主、神様を殺した罪さえ赦されたからです。しかし、私たちは、今日のシラ書の言葉をいつも意識しなければなりません。神様の慈しみを利用してはいけないのです。「神様は全部赦して下さるから大丈夫だろう。」「また悔改めればいい。」というような甘い考えで歩もうとすれば必ず失敗します。出来るだけ罪を犯さないように頑張っても犯してしまう罪ならば、赦されます。けれども、私たちはあまりにも罪になれてしまって、神様の慈しみを利用しようとする場合があります。正しくない、ある意味で卑怯な思いになっている場合も結構あると思います。もちろん、神様は赦してくださいます。しかし、赦して下さるその御心を利用しようとするのは、犯した罪よりもっと悪いのではないのでしょうか。

今日の福音(マルコ 9・41 - 50)も結構厳しい話でしたね。「片方の手が罪を犯したら、その手を切って捨てたほうがよい」とおっしゃっています。片手を捨てることで命が救われるのなら、当然な話かもしれません。この言葉は、大切な言葉ですから、時には、この言葉を意識しましょう。これは少し極端なたとえ話なのかもしれませんが、実際の私たちを振り返ってみますと、葛藤がある時に、本当に大事な事ではない事に命をかけていることも結構あるのではないのでしょうか。

そして、今日の福音の最後にはこのようにおっしゃっていますね。「互いに平和に過ごしなさい。」と。皆様、最近の世の中の情勢をどのように思っていますか。たとえば、アラブの国々では、独裁政治に反対する人々が、民主化を求める動きを激しく起こしています。そして、エジプトやリビアなど周りの国々にも影響を与えていて、どうなるか分からないくらい暴力によってたくさんの人々が殺されています。それを私たちはテレビで見えています。また、ニュージーランドでは大きな地震が起こりました。日本でも九州で火山の噴火が続いています。津波とか、飢餓とか、食べ物がなくて死んでしまう子どもたちがあちこちに見られます。しかし政治家たちは、国内でも国外でも自分たちの利益ばかり考えています。そんな中で、自分には何ができるのか、と時々黙想してみるのですが、一人の何の力もない司祭としてできることは、何もありません。訴えるところもないし、戦うための力もないし、叫び声をあげるところもありません。ただこの世の流れであることを認めながら、自分の生活にこもり、楽しみを持ちながら生きるのが正しい態度なのか、と考えると、少し悲しくなります。

客観的に見ても、この頃は世界中どこもひどくなっているのは事実です。そして人の善い心、優し

い心はだんだん見えなくなっています。子どもが親を殺すし、親は子どもを捨てています。結婚した夫婦が一日もたたないうちに離婚してしまうし、理由もない無差別殺人も起こっています。また、食べ物がなく、子どもを殺して食べたという話さえ流れています。

皆様、私たちは、信仰を持っています。そして何が正しいのかもある程度分かっています。そんな私たちにできることは、今のところ何があるのでしょうか。いくら考えても、『祈り』を通してイエス様に赦しを求める」ことしかありません。私たち一人一人の『祈り』が一つになって、悪の勢力と戦う方法しかないのではないのでしょうか。ですから皆様、いつも逃げ場を探して隠れるのではなくて、私たちの持つ唯一の武器である『祈り』を通して、イエス様の救いの業に与ろうと努力することが何よりも必要なのだと思います。私たちは、本当に一人一人の『祈り』が必要な時代に生きているのです。

ありがとうございました。